

国勢調査

今回は、これまでの調査でよくある質問を取り上げ、お答えします。

Q 調査票を見られたくない

A 今回から、すべての調査票は封筒に入れて封をして提出していただくことになりました。また、市役所へ郵送で直接提出することも可能です。

Q 住民基本台帳があるから調査は必要ないのでは？

A 住居を移してもすぐに届け出ていなかったり、住民登録を残したまま一人住まいで大学へ通っている場合や単身赴任をしている場合などがあったりして、正確な居住実態をつかむことができません。また、住宅の状況や就業の状況など行政に必要とする情報も得られません。人口・世帯の現状を正確に把握するために、調査を行う必要があるのです。

Q 税金の資料になるのでは？

A 例え行政内部であっても、統計以外の目的に使われることは絶対にありません。

Q 調査結果は本当に利用されているのか

A 市の重要な財源でもある地方交付税が配分される際の基礎資料や、福祉・雇用・防災・都市整備など各種行政施策に欠くことのできない資料として利用されています。また、民間でも需要予測や店舗の立地計画などさまざまな活用されています。

Q どうしても答えなければならぬのか

A 記入漏れがあつたり、調査票の提出がなかったりすると正確な現状を把握できません。正確な統計に基づいて、公正で効率的な行政を行うためには、すべての方からの正確な回答が必要です。

調査結果がすぐに目に見える効果となつて現れるわけではありませんが、行政や民間のサービスとなつて私たちの生活に還元されていきます。皆さん一人一人の回答がとても重要です。国勢調査へのご協力をお願いします。

問い合わせ

企画課広報統計係

☎ 0824・73・1159

安心・安全な毎日のために

平成22年度全国統一防火標語

消したかな

あなたを守る 合言葉

おもちゃ花火の事故を防ごう

夏の風物詩「花火」。子どもたちにとっては、なくてはならない遊びの一つです。

しかし、この楽しい花火も取り扱いを間違えると、やけどや火災などの事故につながります。楽しい花火をするために、次のことに注意しましょう。

- 子どもだけではなく大人と一緒に遊ぶ
- 風の強いときは花火をしない
- 水バケツを準備し、後始末は確実に行う
- 人や建物に向けたりせず、燃えやすい物の近くでしない
- 点火にマッチやライターを使わず、線香やローソクを使用する。

子どもの火遊びは大人の責任です

使い捨てのライターを使った子どもの火遊びが多く発生しています。

火遊びが原因による火災の特徴として、大人のいない時や人目につきにく

い場所で火遊びをするため発見が遅れ、火災が拡大してしまう場合があります。

防止策



ライター、マッチを子どもの目の届かないところに保管する

特に、ピストル型のライターなど子どもの興味をそそる形状のものは、手が届かない場所や見えない場所に保管するようにしましょう。

子ども(特に幼児)だけを残して外出することを避けましょう

やむを得ず外出する場合は、火を使う器具を点検(ガスコンロの元栓を締めるなど)し、簡単に火がつかない状態にして出かけましょう。

子どもに火の恐ろしさ、

正しい火の取り扱いを教える

子どもが火に対して興味を示すのは自然なことです。火に関心を持つようになったら火の恐ろしさを十分理解させ、その正しい取り扱い方法について教えていきましょう。